

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10168

研究課題名（和文）患者-医療者関係の再構築に向けた患者参加の概念の体系化と推進方策に関する研究

研究課題名（英文）Study on patient participation: concept and promotion strategies

研究代表者

大西 麻未（Onishi, Mami）

順天堂大学・医療看護学部・准教授

研究者番号：10451767

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：患者参加の推進は、患者中心のケアの実現に向けた質改善活動の一環ととらえることができる。本研究では、医療における患者参加の概念を検討し、その中心的要素として患者の望みの実現に向けたコミュニケーションなどを明らかにした。また、患者参加の推進のためには、患者のヘルスリテラシーの向上や医療施設の組織的取り組みが必要であることが示唆された。これらの知見は、医療者-患者関係の評価の視点として有用と考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

患者参加の推進は重要な課題であると認識されているが学術的知見が少なかった。本研究では、患者及び医療従事者双方の視点から患者参加が意味することやその重要性を示し、かつその実態と促進・阻害要因についても検討したことは新たな知見である。本研究で得られた知見は、医療者-患者関係の評価や改善に活用することができ、今後、患者参加の推進のために必要とされる取り組みについても提示することができた。これらの点で社会的意義があるといえる。

研究成果の概要（英文）：Promoting patient participation is one of the activities of quality improvement in patient-centered care. This study examined the concept of patient participation in medical care and clarified its characteristics, such as communication to understand patients' needs. It was found that promoting patient participation requires improving patients' health literacy and organizational efforts by medical facilities. These findings are useful from the perspective of evaluating the relationship between medical professionals and patients.

研究分野：看護管理学

キーワード：患者参加 医療者-患者関係 パートナーシップ 協働

## 1. 研究開始当初の背景

医療技術や情報技術の進化、医療における倫理的側面の重視や医療制度改革などの社会状況の変化に伴い、医療における患者参加 patient participation や患者とのパートナーシップの重要性が高まっている。患者参加は、患者中心のケアや患者のエンパワーメントの前提となるプロセスとされており、その推進は質改善の活動の一環ととらえることができる。

患者参加とは、健康問題に関する意思決定や治療上の目標設定、服薬の管理など医療における様々な場面に患者自身が関与することとされてきたが、それは単に参加するかしないかといったことでなく、患者の経験として情報提供を受ける、医療者と意見交換をするなど、参加の側面や度合いにも差異がある。しかし、それらを踏まえて患者参加の意味内容を整理し、測定するなどの試みは少ない。我が国においても、患者参加とは何を意味するのか、その内容は明確にされておらず、そのために患者参加の推進方策を検討するための基盤となる学術的知見が不足している状況である。実際に我が国の医療施設で行われている取り組みを概観すると、多くは医療の安全性を高めることを主眼に置いたものである。具体的には、転倒予防などの事故防止対策において、患者に理解と参加を促すツールを作成・活用することや、手術前の確認作業を患者とともに行うなどの取り組みである。また、看護計画や看護目標を患者と共に考える患者参画型看護計画、クリニカルパスの活用による治療への主体的な参加の促進なども、施設によっては実践されている。しかし、これらの活動は、患者参加の一側面に過ぎない。医療施設における患者参加とは何か、自身の健康状態に関する医療者との情報共有や話し合いなども含めた概念整理を行うことで、患者との関わりに対する新たな評価の視点を生み出すことができると考えられる。

また、医療への参加が患者自身にとってどのような経験であるのか、それがどのように推進できるのかは明らかにされていない。患者の医療に参加する意思には、社会的・文化的要因が関連しており、年齢や健康状態、知識などの個人要因によっても異なる可能性がある。さらに、医療従事者側にも、医療に参加することが患者に否定的な影響を及ぼすのではないかといった恐れや懸念があることも示唆されており、医療従事者側の価値観や経験、所属施設の方針や教育も影響を及ぼすと考えられる。患者参加を推進する方策を検討するためには、これらの患者参加に関連する要因を明らかにし、患者および医療従事者個人、そして組織への介入を検討する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究は、医療における患者参加の概念整理を行うこと、また、病院における患者参加の実態とその促進・阻害要因、患者参加が患者及び医療者に及ぼす影響を、患者及び医療者双方の経験から明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 患者参加の概念整理のための文献調査及び有識者インタビュー

患者参加の概念整理および研究動向の把握のため、関連する国内外の先行研究の収集を行い、患者参加の概念の用いられ方と構成要素を検討した。また有識者として、医療者-患者間の協働を推進する活動を行っている医療者、及び患者経験を有する人々を市民団体・患者団体等を通じて募集し、17名を対象に、患者参加とは何か、患者参加の促進要因・阻害要因にはどのようなものがあるかを明らかにするインタビュー調査を実施した。

### (2) 患者及び医療者双方の経験に基づく病院における患者参加の実態とその促進・阻害要因の検討

#### 患者を対象とした患者参加の実態把握及び促進・阻害要因の検討

概念整理の結果を踏まえ、患者からみた患者参加の実態及び患者参加が及ぼす影響、促進・阻害要因について、慢性疾患で継続して外来通院をする成人患者を対象とし、質問紙調査を実施した。対象として、まずは血液透析療法中の患者に焦点を当て、関東地方の患者会に所属する血液透析患者 1947名を対象に郵送法による調査を実施し、878名からの回答を分析対象とした。質問項目としては、患者参加及び個人特性のほか、精神的 QOL(KDQOL-SFTM1.3 日本語版)を調査し、患者参加の実態および患者参加が精神的 QOL に及ぼす影響を検討した。

また、これらの結果に加えて、患者参加に関連する要因として、ヘルスリテラシーやソーシャルサポートの影響をみるために、調査パネルを有するインターネット調査会社の登録者のうち、関東在住の 20 才以上の外来通院患者であることを基準とし、疾患を特定せずに WEB 調査を実施し、351名から回答を得た。

#### 看護師を対象とした患者参加の実態把握及び促進・阻害要因の検討

慢性疾患患者のケアにおいて、看護師が患者との間にどの程度協働的な関わり（患者参加）を実践しているか、実態及びそれに関連する要因を明らかにするための質問紙調査を実施した。全国の日本医療機能評価機構の病院機能評価の認定病院のうち、200床以上の一般病院200施設を無作為に抽出し、慢性疾患（糖尿病・慢性心疾患・慢性腎疾患・膠原病・リウマチ疾患）のケアに従事する看護師2000名を対象に調査を行い、403名から回答が得られた。患者との協働に対する看護師の認識および実際の行動、それらに関連する個人特性および施設の管理体制、職場風土などの組織特性について検討した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 患者参加の概念整理

患者参加は医療の過程や結果に患者のニーズを反映させることを目的とした、医療者-患者間のコミュニケーション特性および関係性を意味するものであり、医療者-患者間で、「患者の望みの探索」のためのやりとりがあること、「患者の望みの実現に向けた相談と支援」が行われていることがその中核的な要素であった。患者の望みの探索は、患者が自分自身の人生が生活において大切にしたいこと、譲れないことが何であるのか、明確にしようとするコミュニケーションであり、患者側は自身の望みを発信すること、医療者側は望みを引き出す関わりを行うことが必要であった。「患者の望みの探索」が行われることで患者にとって譲れないことが明確になり、その実現または損なわない治療内容やセルフケアについての提案・助言である「患者の望みの実現に向けた相談と支援」につながっていた。また、これらの実現のためには患者自身が自分自身のニーズに関する識者として位置づけられていることも必要な要素であった。単に医療者が情報提供をして患者が決めるという過程ではないことが強調されているなど、共同意思決定 shared decision making の概念とも重なると考えられた。

患者参加の促進要因として、患者自身が自分の希望の発信が必要だと考えるようになる「発信を後押しする経験」、医療者側の「患者から引き出すスキル」システム要因として「患者から見える形でのチーム医療」が明らかになった。阻害要因としては、医療者-患者双方の「固定化された役割認識」や「時間や機会のなさ」、患者の「孤立感・あきらめ」や「医療とかがわる経験の不足」が明らかになった。また、診療の場における時間のなさは認識されていたが、患者参加が進むことで目標の共有や治療の受け入れにつながり、長期的な診療の効率性は高まるとも考えられていた。

これらのことより、医療者-患者間で患者自身の希望を軸としたやりとりがあることが主体的な医療への関わりを可能にすること、またそれを促進するためには、医療者の患者から引き出すコミュニケーション、患者の望みを把握するという観点でのチーム医療の強化、病気になる前から医療との関わり方を考えるなどの働きかけの必要性が示唆された。また、有識者インタビューの結果からは、参加よりも「協働」あるいは「パートナーシップ」の表現の方がより適切であることも示唆され、以後の調査では適宜「協働的関わり」等の表現も用いた。

##### (2) 患者及び医療者双方の経験に基づく病院における患者参加の実態とその促進・阻害要因の検討

###### 患者を対象とした調査

血液透析療法中の患者を対象とした調査では、「患者の個人的経験・ニーズの尊重」「共通理解を図るためのコミュニケーション」「医療者からの自己管理の継続支援」「治療やケアに関する共同の決定」の4つの因子に基づく患者参加測定尺度を用いて、患者参加の実態を把握した。尺度得点の傾向から、「患者の個人的経験・ニーズの尊重」「共通理解を図るためのコミュニケーション」はある程度行われている認識であったが、「治療やケアに関する共同の決定」及び「医療者からの自己管理の継続支援」は相対的に見て強化する必要があると考えられた。また、患者参加の得点は精神的QOLと有意な正の関連があった。特に、患者満足度に対しては患者参加の影響が他の要因よりも大きく、治療への信頼や満足度を高める重要な要因であると考えられた。

疾患を特定しない外来通院患者を対象としたWEB調査の結果からは、患者参加の得点は血液透析療法患者と同様に、QOLの精神的側面と正の関連を有していた。さらに、患者参加と正の関連を示した要因として、機能的ヘルスリテラシー、情緒的ソーシャルサポート、伝達的ヘルスリテラシーがあり、伝達的ヘルスリテラシーが最も多くの下位尺度と関連していた。一方、孤独感は、患者参加測定尺度の得点と負の関連を認めた。しかし、モデル全体の説明力が高くなかったことから、今後、さらなる要因の探索が必要と考えられた。

以上のことより、患者参加の程度は精神的QOLの改善にもつながる可能性のある重要な要因であること、ヘルスリテラシーを高める介入や、情緒的サポートの提供が患者参加の推進につながる可能性が示唆された。

#### 看護師を対象とした患者参加の実態把握及び促進・阻害要因の検討

慢性疾患（糖尿病・慢性心疾患・慢性腎疾患・膠原病・リウマチ疾患）のケアに従事する看護師を対象とした調査により、治療やケアの方法を決める上での医療者-患者間の関係について、対象者が理想とする関係と、現在の職場での実際の状況の双方を尋ねたところ、医療者と患者の

関係のあるべき姿について、74%が治療やケアの方法は「医療者と患者で共に考え決定すべき」と回答した一方、職場での実際については、「医療者と患者で共に考え決定している」は47%、35%が「治療やケアの方法は医療者が決定し、患者はそれに従うことが多い」と回答した。患者との協働的な関わり（患者参加）は、重要であるものの時間が十分でないと認識されており、所属施設に患者とのパートナーシップや協働を推進するための取り組みがあると回答した者は32%であった。協働的な関わりの実践についてはおおむね、ある程度実践しているという認識であったが、患者とともに目標を立てる、患者の期待を聞くなどの項目が相対的に低い傾向にあった。

患者との協働的な関わり（患者参加）と有意に関連していた要因は、個人属性よりも組織特性の方が多くみられ、患者ケアについて話し合いや情報共有を積極的に行う職場風土、患者とのパートナーシップや協働についての学習経験、所属組織が患者との協働推進を理念等で明文化していることなどであり、組織的取り組みの重要性が示唆された。

以上、本研究で明らかにした患者参加の概念的特性は、医療者-患者関係を評価する上で重要な視点であることが明らかになった。一方で、患者参加あるいは患者との協働的な関係は強化する必要があり、そのためには、患者のヘルスリテラシーや医療者のコミュニケーション能力の向上、組織としての取り組みが必要であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 田中郁美・大西麻未
2. 発表標題 医療者との協働に対する外来通院患者の認識と個人特性との関連
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大西麻未・田中郁美
2. 発表標題 医療における患者参加とその促進・阻害要因 -患者参加の推進活動に関わる医療従事者・患者の視点から
3. 学会等名 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mami ONISHI
2. 発表標題 Patient participation in health care from the perspective of health professionals: A literature review
3. 学会等名 7th Edition of Virtual Conference on NURSING EDUCATION & PRACTICE (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中郁美・大西麻未
2. 発表標題 血液透析療法における患者参加に対する患者の認識と精神的QOLとの関連
3. 学会等名 第23回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	田中 郁美  (Tanaka Ikumi)  (50846110)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教    (22401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------